長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2022 NOVEMBER VOL.407

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



大村の紅葉スポット、野岳湖に行ってきました！！
“天高く馬肥ゆる秋”を満喫したヘリドッグ太くん

部長紹介～私の専門分野～
内科部長　今泉 芳孝

医長紹介～私の専門分野～
眼科医長　前川 有紀

第76回 国立病院総合医学会に参加しました

TOPICS
・2022年度採用研修医マッチング
　―7年連続フルマッチ―
・活水高等学校高校生の病院見学会

ガーデニングだより Vol.2

院内さるく 管理課

今年も年末年始のかかりつけ医に対する地域医療支援を行います

医療コラム Vol.2

看護部だより Vol.46

医療相談支援センターからのお知らせ

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

内科部長　今泉 芳孝



穏やかな心

血液内科の今泉芳孝と申します。10月から長崎医療センターに赴任しました。前任地の長崎大学病院では主にリンパ系腫瘍の研究や診療を担当していました。

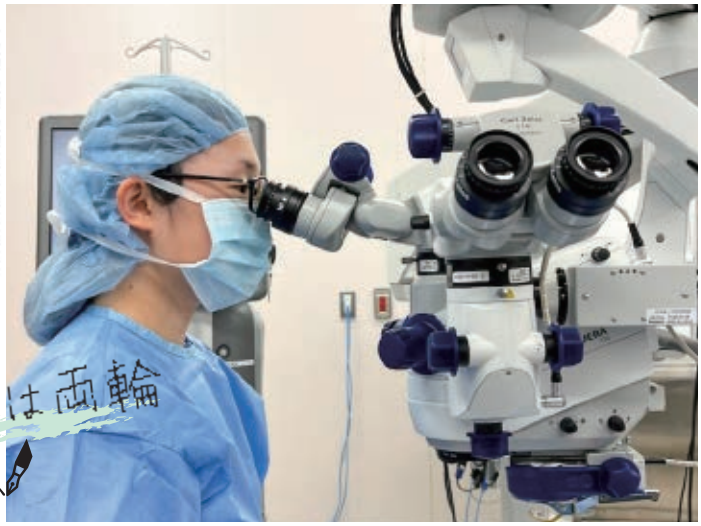
リンパ系腫瘍の代表的な病気として悪性リンパ腫が挙げられます。悪性リンパ腫は、血液の細胞のうちの「リンパ球」ががんになった病気です。様々な病型があり、病型によって進行の速度や治療方針が異なります。全身に広がりやすく抗がん剤治療が必要となることが多い病気ですが、病型によっては、無治療で経過観察が可能な場合もあれば、同種造血幹細胞移植（いわゆる骨髄移植）が必要となることもあります。治療方針の決定には正確な診断が不可欠ですが、診断には病変部位の生検と病理診断が必要です。悪性リンパ腫は様々な臓器に病変を来すため、多くの診療科の先生方にご協力頂きながら診療を行っています。

近年では、抗体医薬や分子標的薬、細胞免疫療法など新しい治療法が次々に開発・導入され、治療成績の改善が期待されています。一方で、患者さんに治療を継続して受けて頂くには、副作用や合併症のコントロールが重要であり、多くの診療科やかかりつけ医の先生方、さらには看護や介護、リハビリ、薬剤管理などに関わるコメディカルの方々との協力・連携が欠かせません。患者さんの高齢化に伴い、血液疾患の診療においても地域における医療連携の必要性はますます高まっていくと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



ライムグリーンはリンパ腫のシンボルカラーです。
安らぎと新な命の息吹を表します。

眼科医長　前川 有紀

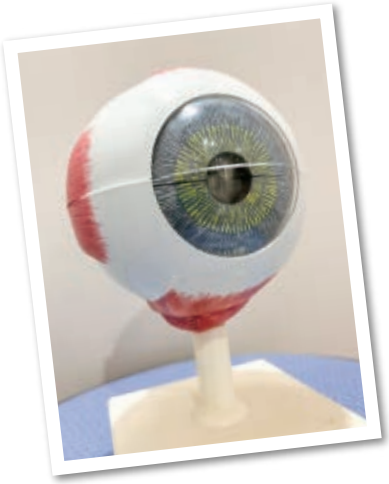


治療とロービジョンケアは両輪



2022年7月から眼科医長として赴任しました、前川有紀と申します。長崎大学病院眼科入局当時から、北岡隆教授を始め多くの先生方のご指導を受けてきた網膜硝子体分野が、私の第一の専門です。網膜剥離や黄斑円孔などの網膜硝子体疾患だけでなく、チン氏帯断裂合併白内障や眼内レンズ脱臼など、眼球内の硝子体手術が必要になる疾患は少なくありません。手術以外にも、加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、黄斑浮腫などに対する抗血管内皮増殖因子(VEGF)薬硝子体内注射やレーザー治療など、網膜の治療法は多岐にわたります。

しかしながら網膜は本来再生しない神経組織であり、多くの網膜疾患では治療で病状が安定しても、発症前の状態への完全回復は困難です。私は以前、理化学研究所の高橋政代先生率いる網膜再生医療研究開発プロジェクトに国内留学する機会を得ました。そこで高橋先生は、再生医療にも必ず視覚リハビリが必要、とロービジョンケアの重要性を常々強調しておられました。ロービジョンケアは、残存視機能や用具や社会福祉制度を活用して日常・社会生活を改善するためのケア全般を指します。帰崎後より学び始めたこれが第二の専門になり、現在長崎大学病院で月1回のロービジョンケア外来を担当しております。当院では現在準備中ですが、可能な事から少しずつ対応を広げ、地域の福祉や教育施設とも連携を深めたいと考えております。





第76回 国立病院総合医学会に参加しました



2022年10月7日（金）と8日（土）の2日間、熊本城ホールにて第76回国立病院総合医学会が開催されました。3年ぶりの対面式の現地開催の学会で、5千名近くの方が参加されました。各講演やシンポジウムに加えて約1700題の一般演題の発表と活発な質疑応答がおこなわれました。

当院からも62演題の発表をおこなわれ、私は17演題の発表の現場に立ち会いました。私の目からみても質の高い内容のものが多く、「長崎医療センターからの発表」ということで、会場の中でひときわ注目を集めていたように思います。来年は10月20~21日に広島市で開催されます。今から来年の発表に向けて準備を始めてほしいと思います。

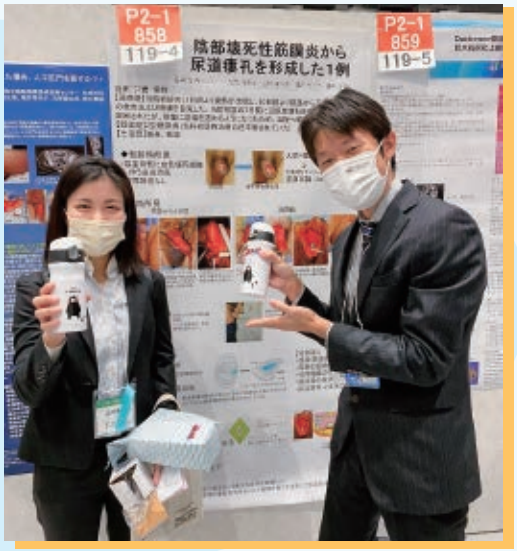
院長　八橋 弘

形成外科医師　出光 茉莉江

当科で経験した「陰部壊死性筋膜炎から尿道瘻孔を形成した1例」をポスター発表し、ベストポスター賞を頂きました。

陰部壊死性筋膜炎から尿道瘻孔を形成するに至ってしまうことは稀です。尿道瘻孔の閉鎖方法を藤岡部長の考案した、尿漏れを減ずる目的で辺縁を瘻孔周囲の組織と重ね合わせる工夫をした植皮術で尿道再建を行ったという治療経験を発表させていただきました。

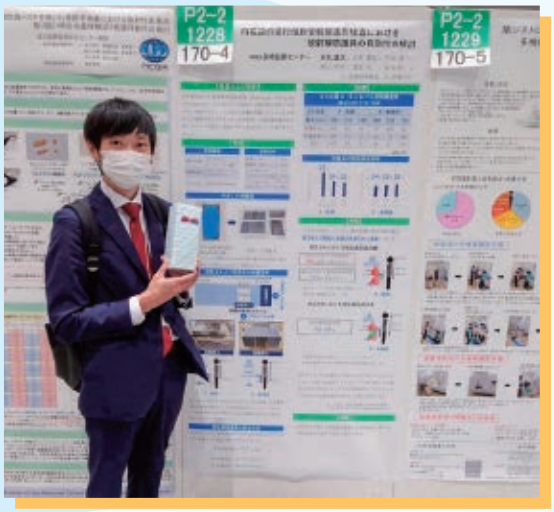
今後も積極的に学会発表を行っていきたいと思います。



吉野先生もベストポスター賞を受賞されました

診療放射線部　米丸 雄太

私は内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）に従事する医師、看護師の放射線被ばく低減を目的として、放射線防護具を作成し、その防護効果を報告させていただきました。今回、廃棄予定のプロテクターを用いて、防護具を作成した点を評価していただき、ベストポスター賞を受賞することができました。令和3年度より、眼の水晶体に対する被ばく線量の限度値が年間150mSvから50mSvに変更され，より厳しくなりました。今後も、被ばく低減に向けた取り組みを行っていきたいと思います。本研究にご協力いただきました、肝臓内科佐伯先生および放射線部の皆様に感謝申し上げます。



3A　内野 佳樹

術後患者に対する夜間の睡眠状況の把握と夜間の一連のケア（睡眠バンドル）を作成し、不眠改善のために非薬理学的介入を行った結果を口演しました。研究を通して、睡眠の重要性を再認識することができ、今後の看護ケアに生かしていきたいと考えています。



3A　百枝 裕太郎

新型コロナウイルス流行下における当院のクラスター支援に関して、現場の施設スタッフとDMATの関わりについてポスターでの活動報告を行いました。久しぶりの現地開催ということもあり、ポスター会場は多くの参加者で活気に溢れ、Covid-19に関する当セッションも多くの参加者が聴きに来られていました。



治療検査センター（内視鏡）　髙月 恵美

座長より『各病棟への出張説明会の実施や400件以上の症例検討をするなど大変な思いをされ、とても良い研究をされていると思います』という評価から、ベスト賞を頂きました。この研究は、内視鏡センター師長・スタッフ・活水看護学校講師が一丸となり行ってきたことです。このベスト賞はその全ての方全員にいただいた賞だと思い持ち帰ってきました。自分たちの調べてきた研究結果を学会で発表し、いろんな方に聞いていただくことが出来とても良い経験が出来ました。また、携わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

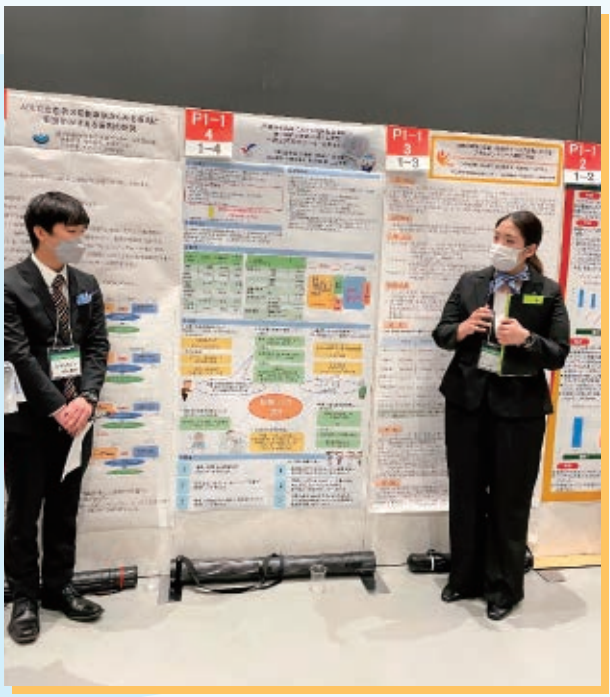




8A　黒田 麻依香

過去３年間病棟に入院した全患者を対象とし、転倒群と非転倒群の比較検討を行い、ポスター発表を行いました。学会参加は初めてであり、緊張はしましたが、2019年度より多くの方の協力を得ながら、継続した研究の集大成であり、自信をもって発表できました。

転倒転落と医療安全というセッションに参加し、様々な病院の転棟要因や対策についての発表を聞きました。転倒転落予防については、看護師だけでの対策は難しく、多職種を巻き込んだ対策の実施が不可欠であることを再確認しました。転倒転落を０にすることは難しいですが、まずは自部署で研究内容のフィードバック、転倒転落予防対策の実施を行い、転倒率低下に努めていきたいと思います。



初めて看護研究に取り組むメンバーを２日間熊本に送り出しました

指導教員の教示のもと、参考文献を手に研究計画書を何度も書き直す賢明なスタッフの姿に少しでもエールを送りたいと思い、学会参加への声を掛けました。









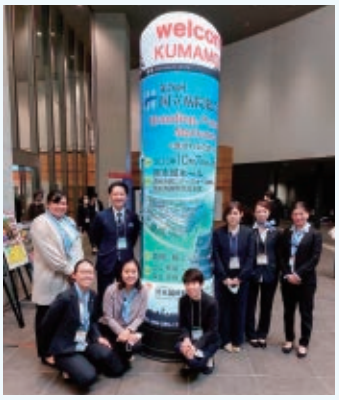
初めての学会参加に幾分緊張していたようですが、国立病院総合医学会は分野が多岐にわたるので、知識の習得にもなり、とても楽しめたようです。自分たちが研究で取り組む分野の医師に名刺を頂戴し、早速メールでのやりとりが始まっています。学会の醍醐味を少し話していただけで、実際に院外の方に声を掛け、交流を図っている自部署のスタッフを誇りに思います。参加するだけでも、ひとまわり成長できる学会となりました。

夜は、「熊本はやっぱり馬刺し！」とご当地グルメを堪能したようです。

５B師長　松尾 和美

地域医療連携室

Team地域医療連携室での“国病学会”参加の取り組み



2022年度、国立病院総合医学会in九州（熊本）ということで、地域医療連携室ではTeamで1年間にわたり準備をしてきました。当Teamでは計7演題を発表しました。演題は以下です。

シンポジウム：『**地域の特性をふまえた地域包括ケアシステムづくりに国立病院機構が果たす役割とは～急性期病院の立場で～**：演者 田中圭』

口演：『**在宅酸素療法患者のよりよい医療サービス提供を目指して―だれでも使える在宅酸素療法マニュアルの作成―**：演者：實藤美香』

ポスター：『**長崎県における自治体主導のてんかん診療連携ネットワークのねらい**：演者 田中圭』

『**精神疾患合併妊産婦の早期から切れ目ない養育支援体制の再構築に向けた院内システムの検討**：演者 大迫朝子』

『**離島等医療連携ヘリ（RIMCAS）を使用した離島への転院支援の実態報告～地域医療連携室、退院支援担当者の立場から～**：演者 龍田彩加』

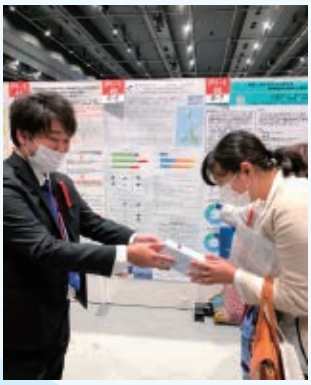
『**長崎県てんかん地域診療連携体制整備事業の取り組み コーディネーターによる相談支援**：演者 實藤美香』

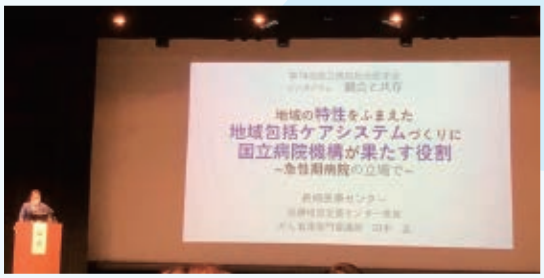
『**急性期病院の入退院支援の質を向上させるための取り組み～入退院支援コアナース会議（研修）の立ち上げと運営について～**：演者 高崎美穂』











学会では多くの参加者と、上記テーマについてさまざまな議論ができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回の学会で得た知見をしっかりと実践につなげていきたいと思います。そして、2023年を見据えてTeam地域医療連携室は動き出しております。この度、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

医療相談支援センター係長　田中 圭

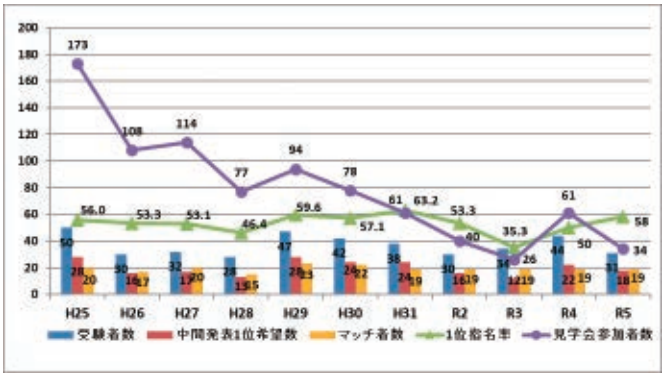
TOPICS

2022年度採用研修医マッチング　―7年連続フルマッチ―

研修管理委員長　長岡 進矢

コロナによる行動制限も3年目となり、各研修施設の見学や説明会が増えてきたのか、今年は昨年ほどの見学者数がなく、採用試験の受験者数も昨年の44名から31名に減少しました。しかし、中間発表の1位指名数は18名と大きく減少することなく、最終的にはプライマリケア養成プログラム15名、周産期プログラム4名ともフルマッチとなり、7年連続のフルマッチを達成することができました。来年度採用予定研修医(第53期生)は、これに自治医大の2名が加わり21名となります。内訳は長崎大学 9、九州大2、佐賀大3、愛媛大1、久留米大1、兵庫医科1、東海大1、川崎医科1、自治医大2、男性17、女性4です。現時点での志望科は特定の科に偏ることなく幅広い志望があるようです。

ウィズコロナと2024年から始まる「医師の働き方改革」、これらに対応すべく当院の研修プログラムも進化しています。希望を持ってやってくる若者たちを皆さまどうぞ笑顔で迎えてください。今後とも研修医教育へのご協力よろしくお願いします。



TOPICS

活水高等学校高校生の病院見学会

副看護部長　髙尾　珠江

今年度も活水高等学校の高校生(12名)の病院見学を実施しました。

様々な部署や役割を担う6名の看護師達から、看護師を職業として選択した理由や看護師のやりがい、看護師が社会に果たす役割、キャリアアップできる職種であること等をわかりやすく話していただきました。そのあとは、フライトナースから説明を受けながらドクターヘリを見学しました。また、八橋院長からは地域における長崎医療センターの役割や職員の夢をかなえる「夢ホスピタル」を目標にされている話を聞くことができました。高校生は目をキラキラさせながら話を聞き、病棟見学はとても緊張していました。「看護師になる」という決意はまだまだ先かと思いますが、「看護師っていいな」と思うきっかけが作れたのではないかと感じております。

御協力いただいた院長先生をはじめ皆さんから様々な看護の思いなどを聞くことができ、「うれしく、長崎医療センターってステキ!!」と感動しました。そして素敵な思いを持った皆さんと一緒に仕事ができることに感謝いたします。

長崎医療センター看護部は、Webでの就職説明会や見学会を定期的に開催しております。興味を持たれている学生さん方は、ホームページやマイナビから申し込みをお願いします。



ガーデニング便り
Vol.2

今回紹介するのは、私が大好きな花の一つ“カラー”です。初夏に花を咲かせます。サトイモ科だそうです。なるほど葉っぱは、サトイモに似てますね。球根ですので、ほったらかしでも良い丈夫な多年草です。庭の隅に凛として咲く花は、貴婦人を思わせます。

副院長　黒木 保



院内さるく

管理課



私たち管理課では、当院職員の人事・給与・福利厚生・労務管理および当院施設の環境整備等の幅広い業務を担当しています。

現在は、「新型コロナウイルス感染症の拡大」や「働き方改革」等により、従来とは異なる対応が求められる大きな転換期であり、管理課としても変化に即したスムーズな対応ができるように一丸となって活動しています。

これからも、長崎医療センターが職員の皆さんにとって健康的で活気に満ちた職場であり続けられるようにサポートしていきたいと思います。

今年も年末年始のかかりつけ医に対する地域医療支援を行います

診療予約申し込み先

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室

TEL：0120－731（ながさきいりょう）－062（おおむらに）

FAX：0120－731（ながさきいりょう）－063（おおむらさ）

申込には診療情報提供書が必要です。先生方が通常お使いの診療情報提供書をご利用ください。

その際、余白に「年末年始」とご記入ください。内容に応じまして、対応をご連絡いたします。

申込期間：12月23日（金）12:00まで受け付けます。それ以降は、従来の救急対応となります。

年末年始休暇期間：12月29日～1月3日

医療コラム Vol.2

非アルコール性脂肪性肝障害といわれたら？治療について



難治性疾患研究部長　小森 敦正

非アルコール性脂肪性肝障害（NAFLD）に、生活習慣の見直しは必要ですか？

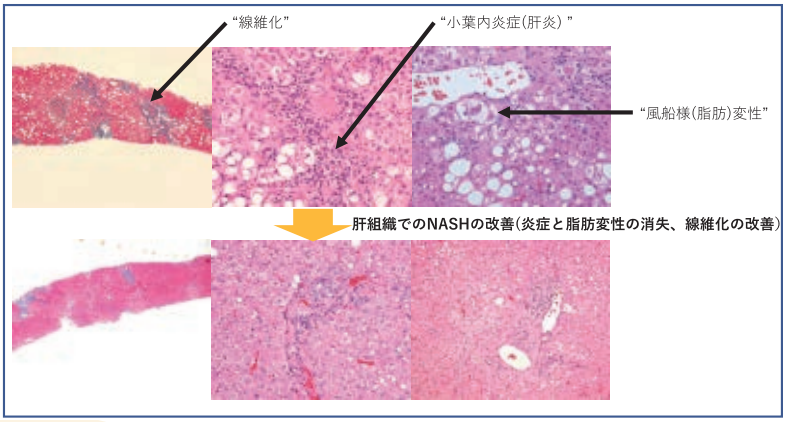
“食生活を見直して、運動を取り入れて”が出発点でしょう。肥満がある方には、”5%の体重減少を目標に”と説明しています。実際に日本消化器病学会/日本肝臓学会2020ガイドラインでは、7%以上の体重減少が勧められています。肥満がない脂肪肝でも、これを生活習慣病（メタボ）のイエローカードと考えると、一度は生活習慣を見直してみることをお勧めします。栄養士、主治医と話し合うことで、昨日までの食生活習慣の歪みがはっきりすることも多いでしょう。早歩き以上の運動を週150分以上、これはWHOが推奨する覚えやすい目標です。

非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の治療とは？

NASH（脂肪肝による肝炎）の周りにある生活習慣病（高血圧、脂質異常、2型糖尿病）の治療を行うことが前提になります。生活習慣病の治療薬には、全身の代謝を改善することで、肝臓にたまった脂肪の減少だけでなく、NASHという病気そのものを軽くし（肝炎の改善）、肝炎の結果できあがった肝線維化を軽減する効果も報告されています。薬剤としては、2型糖尿病に対するピオグリタゾン、GLP-1作動薬、SGLT2阻害剤が該当します。7%以上の体重減少でも、肝内脂肪の減少と肝炎の改善が、10%以上の減量では肝線維化の改善も報告されています。食事・運動療法もNASHの治療法となる理由です。

NASHの新しい治療法は開発中ですか？

臨床試験（治験）で効果が科学的に確認され、NASHの治療薬として承認された薬剤は世界中でまだありません。理由の一つとして、肝細胞の脂肪変性/肝炎/肝線維化というNASHの特徴のうち、どれをどこまで改善したかという肝生検組織における有効性評価項目（エンドポイント）を、過去の治験では適切に設定することが難しかったのではという点があります。これらの教訓から、最近では”NASH肝炎の改善”をエンドポイントの軸とした治験が進んでいます。2型糖尿病および抗肥満薬として開発が進められている、GLP-1/グルカゴン作動薬（自己注射）は、NASH治療薬としても本年国際共同治験が開始されました（当院も参加）。肝細胞を脂肪の毒性から保護する、DNAやRNAの成分を用いた核酸医薬の開発も進行中です。治験に参加される全世界の患者さんのご協力により、NASH治療薬が誕生する日も間近であることを期待しています。



看護部だより Vol.46

特定行為研修修了者の実践状況報告

特定行為看護師研修とは、団塊世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を迎えるにあたり、今後さらに医療行為のスピード化を図るため、また在宅医療にも対応できる看護師を数多く養成するために設けられた制度です。

当院には、令和3年度に特定行為看護師研修を終了した看護師が3名在籍しております。



左から野口みどり（3A)、玉屋さつき (5A)、中村裕子 (7B)

こんな活動してます

- RST（呼吸サポート）、NST（栄養サポート）、MET（院内急変対応）チームラウンド
- 看護部のレベル研修でのタスク（フィジカルアセスメント）
- キャリア形成にむけての特定看護師の紹介
- 勉強会の開催や重症患者看護の実践等



RST ラウンド



長崎県特定行為研修修了者の交流会

医療相談支援センターからのお知らせ

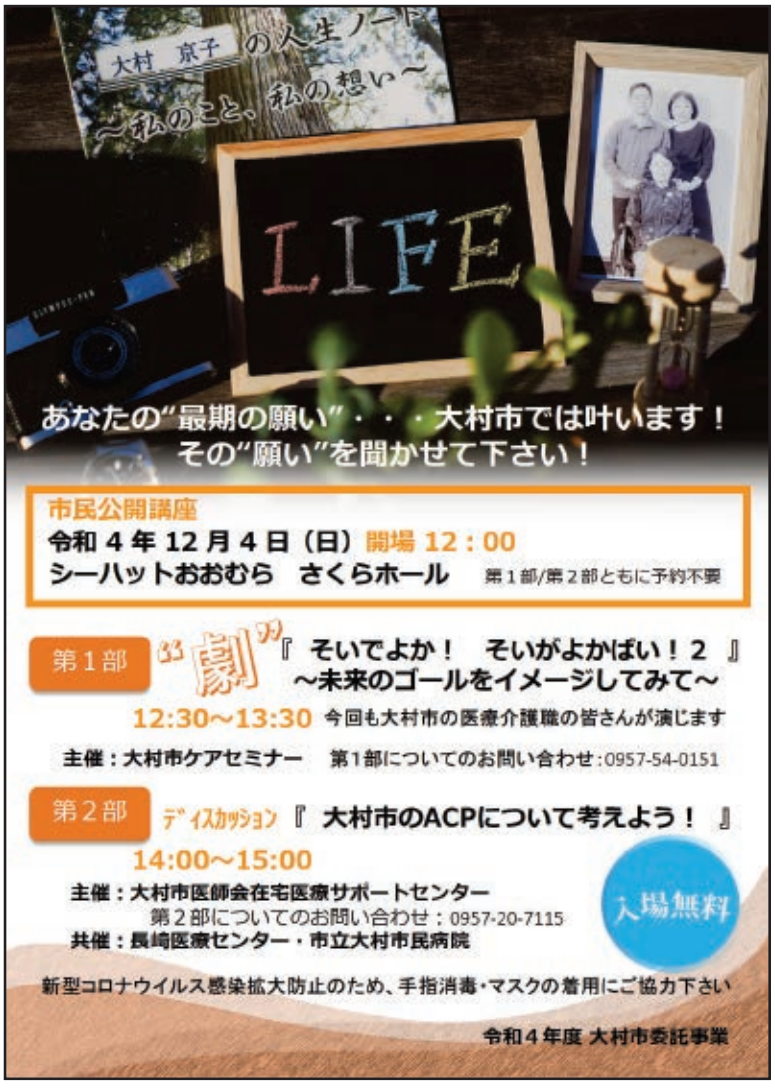
2022年12月4日(日)に大村市市民公開講座が開催されます。

この市民公開講座は大村市、大村市ケアセミナー、大村市医師会在宅医療サポートセンターが主催され、市立大村市民病院と共に当院も共催させていただいております。当院職員も参加させていただきます。

第1部　〝劇〟　和泉 泰衛 内科部長
田中 圭 医療相談支援センター係長

第2部　〝ディスカッション〟　八橋 弘 院長
吉田 真一郎 副院長

皆様、多くのご参加をお待ちしております。



理　念
高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命
長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する